

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期									
科目名	養護実習指導	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無		×										
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	①実習の目的や内容を理解し、目標と実習計画を立てる ②記録の方法について理解する ③実習に必要な実践能力を身につける													
授業概要	養護実習の目的と内容を学び実習の意義を理解する。次に、実習校について事前に調べ学校の概要を理解したうえで実習の目標を定め実習計画を立てる。そして、実習で取り組みたいことについて学生同士の学び合う機会を設け実践力を養う。													
テキスト	①児童生徒の健康診断マニュアル(平成27年改訂) ②新潟県養護教諭執務の手引き													
授業計画	第1回	実習オリエンテーション												
	第2回	実習校について・実習の目標												
	第3回	養護教諭の行う授業・健康教育												
	第4回	授業の進め方と指導案の書き方												
	第5回	実習で取り組みたい健康教育①(調べ学習)												
	第6回	実習で取り組みたい健康教育②(調べ学習)												
	第7回	場面指導①内科的疾患												
	第8回	場面指導②内科的疾患												
	第9回	場面指導③外科的疾患												
	第10回	模擬授業①												
	第11回	模擬授業②												
	第12回	模擬授業③												
	第13回	模擬授業④												
	第14回	ほけんだより												
	第15回	養護実習まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年
科目名	養護実習	授業形態	実習	単位数	4単位
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無		×	
実務経験教員の経歴					
授業のねらい (到達目標)	<p>養護実習の目的には、端的には、学校保健の現場を体験し、養護教諭の職務を経験的に学習することにより、学校教育、学校保健、養護教諭の職務に関する理解を深め、責任を持って学校保健に携わる資質と態度を養成することにある。その目的を達成するため、具体的に以下のような点を目標として実習に取り組むことが求められる。また、以下の点以外にも、自分自身の課題に則して目標を設定し、課題を明確にすることが必要である。</p> <p>①学校という教育現場について理解する ②保健室、養護教諭の役割について理解する ③養護教諭の職務について理解する ④養護教諭の職務を体験し、必要な能力を養う ⑤養護教諭への意欲を高めると共に、養護教諭として必要な資質、態度について理解する</p>				
授業概要	<p>実習の内容、項目は、実習の時期や校種、実習校の状況などに応じて決定されます。以下はその主な項目であります。実習機会のない項目についても可能な限り自ら学習を深め、実習校の保健活動全体の把握に努めるようにいたします。</p> <p>(1) 学校教育の理解 ①学校教育の概要 ②学校保健活動</p> <p>(2) 保健室の理解・実習 主として保健室を中心に、学校保健や養護教諭の活動について知る。 ①健康観察 ②救急処置 ③保健室経営 ④定期健康診断 ⑤養護教諭執務計画 ⑥健康相談活動 ⑦感染症の予防・対策</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	保育実践演習	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の専門知識の振り返りにより、保育の専門的基礎力の定着を図る。 ・専門的知識技能の実践応用、課題解決能力を高める。 						
授業概要	1) 現在の保育実践上の課題、子ども子育てに関する環境上の諸問題を自ら発見し、その改善策を考える。 2) 現在の保育問題を調べグループ討議、研究発表等を行う。						
テキスト	関口はつ江「保育の基礎を培う保育原理」、保育所保育指針						
授業計画	第1回	保育の基礎(保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかまとめ、保育者の責任と倫理を理解する)					
	第2回	子どもの最善の利益とは(その意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。)					
	第3回	社会の現状と子育ての問題①(日本の子育て環境、保育制度の問題点を雑誌、新聞その他から最新資料を集め整理する)					
	第4回	社会の現状と子育ての問題②(グループごとにテーマを決め、問題を多角的に捉え、意見交換する。)					
	第5回	社会の現状と子育ての問題③(グループごとに問題改善策を考える)					
	第6回	社会の現状と子育ての問題④(グループ毎に学修したことを発表する)					
	第7回	社会の現状と子育ての問題⑤(グループ毎に学修したことを発表する)					
	第8回	保育者の実践力①(生活から行事へつなげる保育とは)					
	第9回	保育者の実践力②(生活から行事へつなぐための工夫や指導方法を考える)					
	第10回	保育者の実践力③(ロールプレイング)					
	第11回	保育者の実践力④(ロールプレイング)					
	第12回	保育者の実践力⑤(保育者に必要な技術とは)					
	第13回	保育者としての課題とそのためすべきことを考える					
	第14回	スクーリングテスト					
	第15回	期末テスト					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	教育行財政	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	長島 弘一	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立小学校での36年の勤務経験から、小学校で求められる教師の資質に基づいて実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	教育行政の基本原理や教育行政組織等の基礎的知識を習得するとともに、就学、教育課程、教科書・教材、研修、学校施設・学級編成基準等に関する教育関係法令を中心に、教育行財政上の諸問題について考察する。						
授業概要	教育行財政の基礎を学び、就学、教育課程、教科書、教材、研修、学校施設、学級編成基準等に関する内容を関係法令を中心に学ぶ。						
テキスト	『有権解釈に重きを置いた 教育法規 第四版』山本豊著 学校図書						
授業計画	第1回	教育行政に関する教育法を学ぶ意義 第1章 教育法の体系と構造 1. 教育法規とは 2. 法体系と法の形式・形式的効力 3. 国の主な法令 4. 地方の主な法規					
	第2回	第2章 日本国憲法の教育に関する関連する規定 1. 教育を受ける権利 2. 義務教育 3. 法も下の平等 4. 信教の自由 5. 学問の自由 他					
	第3回	第3章 教育基本法 ① 教育基本法の改正 1. 前文 2. 各条文 第一章 教育の目的及び理念					
	第4回	第3章 教育基本法 ② 第二章 教育の実施に関する基本 第三章 教育行政 第四章 法令の制定					
	第5回	第4章 学校教育 ① 1. 学校 2. 学校の設置と管理 3. 学校の規模と編制 4. 学校の運営 他					
	第6回	第4章 学校教育 ② 6. 教育課程 7. 教育要領と学習指導要領 8. 教科書の使用義務と補助教材					
	第7回	第4章 学校教育 ③ 9. 備付表簿等とその保存期間 10. 学年・学期・授業日・休業日					
	第8回	第5章 児童・生徒 ① 1. 義務教育 2. 義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業等 他					
	第9回	第5章 児童・生徒 ② 4. 出席停止 第6章 学校保健・安全・給食 1. 学校保健 2. 学校安全 3. 学校給食					
	第10回	第7章 特別支援教育 特殊教育から特別支援教育へ 1. 特別支援学校 2. 特別支援学級 3. 通級による指導					
	第11回	第8章 教職員 ① 1. 校長及び教員等の配置 2. 教職員の配置とその職務 3. 教職員の資格 4. 教育職員免許法					
	第12回	第8章 教職員② 5. 教育公務員 6. 採用・昇任・降任・転任 7. 服務					
	第13回	第8章 教職員③ 8. 分限及び懲戒 9. 研修 10. 給与、勤務時間その他の勤務条件					
	第14回	第9章 教育行財政 1. 国と地方の役割分担 2. 国・文部科学省 3. 地方・教育委員会 他					
	第15回	第10章 その他の教育関連法規 1. いじめ防止対策推進法 2. 児童虐待防止等に関する法律 3. 国家賠償に関する法 他					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期	
科目名	教職実践演習(小学校)	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成系大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年					
授業のねらい (到達目標)	大学4年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力等の実践知と統合を図り, 使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質構築と確認を行う					
授業概要	① 使命感や責任感, 教育的愛情 ② 社会性や対人関係能力 ③ 幼児児童生徒理解や学級経営力 ④ 教科・保育内容の指導力					
テキスト	東京福祉大学指定テキストのほか, 国立大学法人上越教育大学「教職実践演習」ワークブックを					
授業計画	第1回	学級経営における教師の対応(ロールプレイング)				
	第2回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(集団討論)				
	第3回	学級経営における教師の対応(ロールプレイング)				
	第4回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(集団討論)				
	第5回	学級経営における教師の対応(ロールプレイング)				
	第6回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(集団討論)				
	第7回	「私の学級経営方針」(意見発表と交流)				
	第8回	「私の学級経営方針」(意見発表と交流)				
	第9回	授業設計と模擬授業:5時間 ア 研究題材の提示 イ 授業展開構想の発表 ウ 模擬授業				
	第10回	授業設計と模擬授業:5時間 ア 研究題材の提示 イ 授業展開構想の発表 ウ 模擬授業				
	第11回	授業設計と模擬授業:5時間 ア 研究題材の提示 イ 授業展開構想の発表 ウ 模擬授業				
	第12回	授業設計と模擬授業:5時間 ア 研究題材の提示 イ 授業展開構想の発表 ウ 模擬授業				
	第13回	授業設計と模擬授業:5時間 ア 研究題材の提示 イ 授業展開構想の発表 ウ 模擬授業				
	第14回	総合的な学習の時間の年間展開構想の立案と発表 ア テーマの設定 イ 年間展開構想の提出				
	第15回	総合的な学習の時間の年間展開構想の立案と発表 イ 年間展開構想の提出				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	教職実践演習(幼稚園)	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図る。 2. 専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高める。						
授業概要	現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考える。 問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養うため、現在の保育問題(少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等)について調べ、身近な具体的課題を設定し、テーマ毎に研究、グループ討議、研究発表を行う。						
テキスト	配布資料						
授業計画	第1回	保育者の専門性とは何か					
	第2回	日本における保育実践上の課題について① 児童福祉行政における問題点					
	第3回	日本における保育実践上の課題について② 児童虐待					
	第4回	日本における保育実践上の課題について③ 多文化保育					
	第5回	日本における保育実践上の課題について① 統合保育					
	第6回	日本における保育実践上の課題について① 児童虐待					
	第7回	グループ討議① 保育における地域との連携について					
	第8回	グループ討議② 現代の保護者の子育て意識と保育施設、保育者の役割について					
	第9回	グループ討議③ 都市化現象が子どもの生活と発達に及ぼす影響について					
	第10回	グループ討議④ 保護者支援の方法について					
	第11回	グループ討議まとめ 模擬授業①					
	第12回	グループ討議まとめ 模擬授業②					
	第13回	グループ討議まとめ 模擬授業③					
	第14回	子どもの遊びを豊かにする環境構成、材料、保育者の関わりについて					
	第15回	まとめ 保育者に求められる質とは何か					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年
科目名	教育実習(初等) I	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<p>1. 実習生の姿勢・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> マナーを守り、意欲的に取り組む 礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ 自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める 実習園の特色や保育方針を理解し、課題を明確にして実習に臨む 「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする 「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める <p>2. 知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む 3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む 保育におけるPDCAサイクルを理解する ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す 幼児の言動から心情を感じとりながら、関わる事ができる <p>3. 実習日誌</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる 幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる 幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる 「気づき」を書く事ができる 保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる 「個」と「集団」の姿を記録できる 幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる <p>4. 指導案</p> <ul style="list-style-type: none"> ※教育実習 I では、記録に重点を置き、指導案は教育実習 II の課題とする 子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げる事ができる 導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる <p>5. 手続きと提出物</p> <ul style="list-style-type: none"> 期日を守り、自主的に進められる 期日を確認し、計画的に進められる 				
授業概要	<p>実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるように指導する。</p> <p>教育実習 I での経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の等の基準に基づく)及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年
科目名	教育実習(初等)Ⅱ	授業形態	実習	単位数	2単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<p>(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。</p> <p>(2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、接することができる。</p> <p>(3) 子どもたちの実態を踏まえ、着実に力をつけられるような学習指導案の作成と、現代の学校現場で求められる基礎的な技術を駆使した授業展開ができるようにする。</p> <p>(4) 授業時における様々な子どもに対応した指導や支援のあり方を学ぶ。</p> <p>(5) 実習日誌の記録方法を身につける。</p>				
授業概要	<p>1 子ども理解を実際に子どもたちとふれあう。</p> <p>2 教材研究をしっかりと行い、学習指導案を作成し、授業技術を磨く。</p> <p>3 学級経営、生徒指導について理解し、学級経営力を身に付ける。</p> <p>4 道徳、特別活動について理解し、授業実践を行う。</p> <p>5 校務分掌、学校事務、PTA、地域社会等について理解を深める。</p> <p>6 地域に根ざした学校教育現場の姿を知る。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき)及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	教職実践演習(養護教諭)	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×				
実務経験教員の経歴							
授業のねらい (到達目標)	①養護教諭免許として現場で働くために自己の課題は何かみつける ②自己課題を克服するために研鑽を積むべき事項を説明することができる ③これからの養護教諭に必要なことを考える						
授業概要	養護実習やこれまでの養護に関する履修科目を振り返り、各自が何を学び、何を学んでいないかを明確にする。その上で、自己の課題を挙げ、学生同士でその課題を共有し、いかに克服していくかを考える。不足している知識・技術について学びを深め、演習を行う。						
テキスト	なし						
授業計画	第1回	実習の振り返り					
	第2回	実習報告①実習内容について					
	第3回	実習報告②保健指導について					
	第4回	実習報告③場面指導について					
	第5回	4年間の学びの振り返り					
	第6回	養護教諭としての自己課題を考える					
	第7回	課題発表と研鑽を積むべき事項について					
	第8回	演習計画立案					
	第9回	課題演習①					
	第10回	課題演習②					
	第11回	課題演習③					
	第12回	課題演習④					
	第13回	課題演習⑤					
	第14回	これからの養護教諭に求められること					
	第15回	養護のまとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年										
科目名	R・G・S	授業形態	講義	単位数	1単位										
担当教員	本田 拓也	実務経験の有無	×												
実務経験教員の経歴															
授業のねらい (到達目標)	次年度に控える就職活動に向けて、就活スキルやマナーを身につける。														
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生き立ちを振り返りながら「自己分析」をする。 ・ 自身の進路に対する希望を明確にし、「園研究」をする。 ・ 「履歴書」「添え状」等の書き方を学ぶ。 ・ 面接の場にふさわしいマナーや立居振舞を学び、面接練習をおこなう。 														
テキスト															
授業計画	第1回	前年度の就職状況の説明													
	第2回	就職活動のルール 前期のスケジュール確認													
	第3回	求人票の見方① 課題 労働法													
	第4回	求人票の見方② 課題 労働法													
	第5回	就職活動の書類準備													
	第6回	就職活動の書類準備													
	第7回	園研究①													
	第8回	園研究②													
	第9回	面接立居振舞①													
	第10回	面接立居振舞②													
	第11回	面接とは													
	第12回	面接準備①													
	第13回	面接準備②													
	第14回	模擬面接①													
	第15回	模擬面接②													
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">総合評価算出基準</td> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>				総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%
総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠											
	50%	25%	10%	15%											
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する															

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(前期)	
科目名	卒業研究	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×			
実務経験教員の経歴						
授業のねらい (到達目標)	卒業研究執筆に向けた基礎的な知識を獲得し, 論文主題(テーマ), 論文構成につなげるスキルを培う。					
授業概要	① 卒業研究とは ②卒業研究の流れ ③卒業研究に必要な基礎的なスキル ④ ブックレビュー執筆 ⑤テーマ設定 ⑥参考資料収集 ⑦論文構成立案					
テキスト	なし					
授業計画	第1回	卒業研究とは……論文とは何か				
	第2回	卒業研究とは……テーマと題材, 資料				
	第3回	論文のルール, 種類				
	第4回	ブックレビュー執筆				
	第5回	論文を書くための基礎能力				
	第6回	論文を書くための基礎能力				
	第7回	論文を書くための基礎能力				
	第8回	論文を書くための基礎能力				
	第9回	論文を書くための基礎能力				
	第10回	論文を書くための基礎能力				
	第11回	論文を書くための基礎能力				
	第12回	論文を書くための基礎能力				
	第13回	テーマ設定				
	第14回	テーマと理由(論文主題設定と理由)発表意見交流会				
	第15回	テーマと理由(論文主題設定と理由)発表意見交流会, 執筆				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(後期)	
科目名	卒業研究	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無		×		
実務経験教員の経歴						
授業のねらい (到達目標)	卒業研究執筆に向けた基礎的な知識を獲得し, 論文主題(テーマ), 論文構成につなげるスキルを培う。					
授業概要	立案した卒業研究計画に基づき, 執筆要項に沿って, 卒業論文執筆を行う。					
テキスト	なし					
授業計画	第1回	各学生の進捗状況報告と意見交換				
	第2回	各学生の進捗状況報告と意見交換				
	第3回	卒業論文執筆				
	第4回	卒業論文執筆				
	第5回	卒業論文執筆				
	第6回	卒業論文執筆				
	第7回	卒業論文執筆				
	第8回	卒業論文執筆				
	第9回	卒業論文執筆				
	第10回	卒業論文執筆				
	第11回	卒業論文執筆				
	第12回	卒業論文執筆				
	第13回	卒業論文執筆				
	第14回	卒業研究発表会				
	第15回	卒業研究発表会				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年
科目名	看護臨床実習	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	大滝 則子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	<p>看護臨床実習の目的は以下3点である。</p> <p>1) 病院の施設設備や各部門のスタッフの動きを見学し、医療機関への理解を深める。</p> <p>2) 診療や看護の過程の見学、患者様やご家族と接すること等を通して、障害疾病への理解を深める。</p> <p>3) 健康問題のある子どもを適切に医療につなぎ、学校と医療機関の良い連携のもとに健康をサポートできる養護教諭としての資質を養う。</p> <p>臨床実習の具体的目標は以下である。</p> <p>1) 医療機関について理解する</p> <p>① 病院の機能、施設設備、組織、スタッフの構成と業務内容を知る。</p> <p>② 外来診療に流れ、医療機関を正しく利用できるようにする。</p> <p>③ 外来診療の実際やそれを支えるチームについて知る。</p> <p>2) 障害疾病を理解する</p> <p>① 疾患と症状、それに対する処置や看護の内容、患者様の反応等を見学することにより、保健室でのアセスメント、応急手当、ケア、保健指導等に生かせるようにする。</p> <p>② さまざまな健康レベルにある人々の心身の状態について理解し、医師や看護師の患者様への接し方から、養護教諭としての接し方を学ぶ。</p> <p>3) 医療機関と学校との連携について洞察する</p> <p>① 見学を通して、医療を必要とする子どもへのよりよいサポートのあり方、医療機関と学校と</p>				
授業概要	<p>実習の内容、項目は、実習の時期や病院の診療科目や状況などに応じて実習先と相談の上可能な範囲でお願いさせていただくものとするが、概ね以下の内容を実習内容とする。</p> <p>1) 見学・観察項目</p> <p>① 治療活動の見学</p> <p>② 施設設備の管理</p> <p>③ 与薬の準備と管理</p> <p>④ 受付業務の見学</p> <p>2) 参加項目</p> <p>① 一般状態の観察</p> <p>② コミュニケーション技術</p> <p>③ 日常生活援助</p> <p>④ 治療活動への参加</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習院による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解等の評価基準に基づく)、及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(前期)		
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。						
授業概要	Excel2016を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。MOS Excel2016 検定合格を目指す。						
テキスト	Excel2016セミナーテキスト基礎・Excel2016対策テキスト&問題集						
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、ネットワーク接続、プリンタ設定 Excelの基本操作					
	第2回	表の作成					
	第3回	四則演算と関数1					
	第4回	四則演算と関数2					
	第5回	表の編集1					
	第6回	表の編集2					
	第7回	基礎まとめと復習					
	第8回	ワークシートやブックの作成と管理1					
	第9回	ワークシートやブックの作成と管理2					
	第10回	ワークシートやブックの作成と管理3					
	第11回	セルやセル範囲のデータ管理1					
	第12回	セルやセル範囲のデータ管理2					
	第13回	数式や関数を使用した演算の実行1					
	第14回	数式や関数を使用した演算の実行2					
	第15回	数式や関数を使用した演算の実行3					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(後期)		
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。						
授業概要	Excel2016を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。MOS Excel2016 検定合格を目指す。						
テキスト	Excel2016セミナーテキスト基礎・Excel2016対策テキスト&問題集						
授業計画	第1回	グラフやオブジェクトの作成1					
	第2回	グラフやオブジェクトの作成2					
	第3回	模擬1(演習)					
	第4回	模擬1(演習)					
	第5回	模擬1(テスト)					
	第6回	模擬2(演習)					
	第7回	模擬2(テスト)					
	第8回	模擬3(演習)					
	第9回	模擬3(テスト)					
	第10回	模擬4(演習)					
	第11回	模擬4(テスト)					
	第12回	模擬5(演習)					
	第13回	模擬5(テスト)					
	第14回	実力判定(演習)					
	第15回	実力判定(テスト)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(前期)									
科目名	情報処理Ⅲ	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	金子 憲史	実務経験の有無												
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	就職してから作成することになるおたよりを作成できるようにする(ひな型を使用せずに新規で作成する)。後期の最終成果物であるデジタル絵本をPowerPointで作成してもらうため、PowerPointの基本操作をおさえる													
授業概要	前半:Wordを用いたおたより作成(作成上のポイント説明後、各自演習) 後半:PowerPointの基本操作(前期期末試験はPowerPointで行う) 毎回その日の授業時間内に作成した成果物を提出してもらうため、USBメモリを必ず持ってくる													
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・おたより文例&イラストカット集 ・できるPowerPoint2016 													
授業計画	第1回	オリエンテーション												
	第2回	連絡網(図形操作中心の事例)作成												
	第3回	給食だより(表機能の活用)作成												
	第4回	おたより作成演習(入園式)												
	第5回	おたより作成演習												
	第6回	おたより作成演習+最終成果物オリエンテーション												
	第7回	前期中間課題作成												
	第8回	前期中間課題作成												
	第9回	PowerPoint基本操作(テキスト第2章、第3章)												
	第10回	ミニ演習 PowerPoint基本操作(テキスト第5章、第6章)												
	第11回	PowerPoint基本操作(テキスト第7章) ミニ演習												
	第12回	期末前演習												
	第13回	期末前演習												
	第14回													
	第15回													
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(後期)	
科目名	情報処理Ⅲ	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	金子 憲史	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	テクノスクールでのパソコン技術指導					
授業のねらい (到達目標)	デジタル絵本の作成					
授業概要	画像・図形の作成・編集、アニメーションの設定、音楽の挿入など、デジタル絵本作成に役立つ機能を演習を通じて扱う 10コマ目にデジタル絵本の絵コンテを提出してもらう					
テキスト						
授業計画	第1回	ペイントを用いた描画演習				
	第2回	ミュージックビデオの作成				
	第3回	写真入りの年賀状作成				
	第4回	メッセージカードの作成、最終成果物ガイダンス				
	第5回	メッセージカードの作成、最終成果物ガイダンス				
	第6回	アニメーションの総合演習、最終成果物ガイダンス				
	第7回	アニメーションの総合演習、最終成果物ガイダンス				
	第8回	中間試験前演習				
	第9回	後期中間試験				
	第10回	デジタル絵本の作成				
	第11回	デジタル絵本の作成				
	第12回	デジタル絵本の作成				
	第13回	デジタル絵本の作成				
	第14回	デジタル絵本の作成				
	第15回	デジタル絵本の作成				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(前期)									
科目名	リトミック応用	授業形態	演習	単位数	2単位									
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年													
授業のねらい (到達目標)	年齢別のリトミック指導法をティーチングを通して理解する。 簡単なリトミック遊びを身に付け実習や就職してからできるように実践力をつける。													
授業概要	保育園において、指導者が園児に指導している様子を1歳児～5歳児まで見学し、年齢別指導法を学習する。 いろいろなリトミックの手法を実際に動きながら、ねらいも含めて学習し、就職してから実践できるようにリトミックの楽しさを体験する。													
テキスト	リズム&ゲームにどっぷり/世界の歌を遊ぶリトミック・ゲーム67選 子どものためのリトミックde発表会/アクション&ビートでつくる音楽鑑賞の授業													
授業計画	第1回	新潟えきなか保育園リトミック指導見学												
	第2回	新潟えきなか保育園リトミック指導見学												
	第3回	からだのなかの音楽												
	第4回	ビートにのる①												
	第5回	ビートにのる②												
	第6回	拍子を感じる①												
	第7回	拍子を感じる②												
	第8回	フレーズ・呼吸・空間①												
	第9回	フレーズ・呼吸・空間②												
	第10回	ロープdeゲーム～イメージあそび～												
	第11回	対話を楽しもう～即興演奏～												
	第12回	歌&楽器deゲーム①												
	第13回	歌&楽器deゲーム②												
	第14回	音楽と動き												
	第15回	自然な動きを用いた音楽ゲーム												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(後期)		
科目名	リトミック応用	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年						
授業のねらい (到達目標)	年齢別のリトミック指導法をティーチングを通して理解する。 簡単なリトミック遊びを身に付け実習や就職してからできるよう実践力をつける。						
授業概要	保育園において1歳児～5歳児まで実際に学生が指導計画案を立て指導する。 いろいろなリトミックの手法を実際に動きながらねらいも含めて学習し、就職してから応用できるように楽しい体験をする。						
テキスト	リズム&ゲームにどっぷり/世界の歌を遊ぶリトミック・ゲーム67選 子どものためのリトミックde発表会/アクション&ビートでつくる音楽鑑賞の授業						
授業計画	第1回	新潟えきなか保育園リトミック指導					
	第2回	新潟えきなか保育園リトミック指導					
	第3回	音楽の「かたち」を体験①					
	第4回	音楽の「かたち」を体験②					
	第5回	音楽の「つながり」を体験①					
	第6回	音楽の「つながり」を体験②					
	第7回	ボディー・パーカッション					
	第8回	旋律や動きの体験					
	第9回	いろいろなリズム・ゲーム					
	第10回	リズムの変化を楽しむ					
	第11回	旋律・フレーズ・形式・和音の変化を味わう					
	第12回	創造的な動きを楽しむ					
	第13回	リトミックと発表会					
	第14回	幼児のリトミック発表会					
	第15回	さまざまなリトミック発表会					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	道徳の指導法	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	橋本 定男	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。						
授業概要	道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義、道徳的、倫理的課題について学修する。						
テキスト	中戸義雄、他『道徳教育の可能性:その理論と実践』ナカニシヤ出版						
授業計画	第1回	道徳教育は必要か(1)(教科書:第1章) 道徳とは何かを確認したうえで、学校教育における道徳と他の授業科目(国語・算数など)との違いをおさえる。					
	第2回	道徳教育は必要か(2)(教科書:第1章) 「手品師」という人気道徳教材をもとに、道徳授業のあり方を考える。					
	第3回	道徳と倫理(教科書:第2章) 道徳と倫理をめぐる人類の叡智と学問的な蓄積を、歴史にさかのぼって通観する。					
	第4回	道徳教育の歴史(教科書:第3章) 日本の道徳教育の歴史を、その時々々の社会・政治体制との影響関係を通じて理解する。					
	第5回	道徳教育における発達と生成(教科書:第4章) 心理学者コールバーグの理論を踏まえながら、日本映画『アカルイミライ』を題材にして現代社会における道徳形成のあり方を考える。					
	第6回	道徳規範の諸側面(1)(教科書:第5章) 普遍的な道徳的価値があるとする道徳的絶対主義と、道徳的価値は個人や社会や文化圏によって異なるとする道徳的相対主義の違いを理解する。					
	第7回	道徳教育の諸側面(2)(教科書:第5章) 道徳的絶対主義と道徳的相対主義の違いを踏まえながら、個人と他者との関係を考察する。					
	第8回	悪について(教科書:第7章) 道徳を、「よさ」からではなく、「悪」から検討することで、道徳認識の射程を広げる。					
	第9回	情報社会の倫理(教科書:第8章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「情報倫理」とその教育を検討する。					
	第10回	応用倫理(1)(教科書:第9章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「生命倫理」とその教育を検討する。					
	第11回	応用倫理(2)(教科書:第9章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「動物倫理」とその教育を検討する。					
	第12回	応用倫理(3)(教科書:第9章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「環境倫理」とその教育を検討する。					
	第13回	道徳教育の現代的傾向と新米教師の苦悩(教科書:第10・11章) 道徳教育の変遷を確認しながら、新米教師の奮闘記を手掛かりとして、道徳教育を実践的に考える。					
	第14回	道徳の授業(教科書:第15・16章) 障がいのある子どもとの交流や養護学校との交流活動の実践を検討する。					
	第15回	道徳をめぐる個人的視点を社会的視点 これまでの授業を振り返りながら、道徳をめぐる個人と社会の関係を捉えなおす。					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							